

# 松本市の景気動向

— 中小企業景気動向基本調査 —

【令和3年7月】

■調査概要（データ対象期間：令和3年7月1日～7月31日）

○調査期間：令和3年7月28日～令和3年8月19日

○調査対象：市内中小企業200企業に対して郵送等によるアンケート調査

○回収状況：建設業19企業、製造業20企業、卸売業10企業、小売業22企業

飲食業20企業、サービス業44企業（運輸、不動産仲介業を含む）

<合計135企業>

○調査項目：7月の売上・仕入・営業利益・受注量・受注単価・販売(客)数・販売(客)単価

状況向こう3ヵ月の業況見通し（DI値を集計）

(注)DI(Diffusion Index)値は、売上などの各項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準と

して、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下

向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示す

ものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ $DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$

松本市・松本商工会議所

# 概況

業況DIはマイナス幅の拡大、水準DIはマイナス幅の縮小

## 1. 業況判断

○全産業合計の業況DI（前年同月比ベース）は、前月（▲7.8）よりマイナス幅が6.3ポイント拡大し、▲14.1となった。業種別では、製造業は横ばいとなった。卸売業ではプラスからマイナスに転じ、サービス業では0からマイナスに転じた。小売業ではマイナス幅が縮小し、建設業、飲食業ではマイナス幅が拡大した。

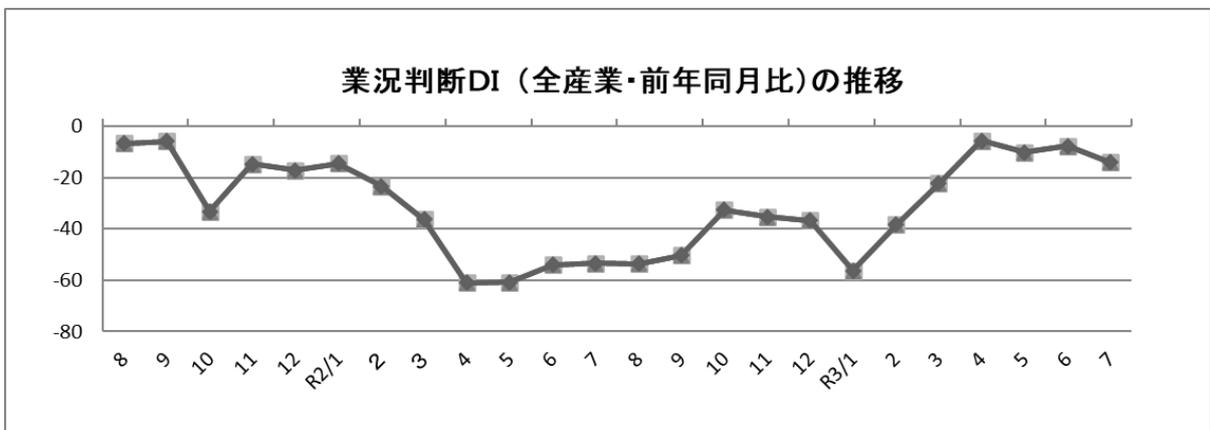
○全産業合計の水準DIは、前月（▲37.6）よりマイナス幅が0.5ポイント縮小し、▲37.1となった。業種別では、卸売業は0からマイナスに転じた。小売業、サービス業、製造業ではマイナス幅が縮小し、飲食業は横ばいとなった。建設業ではマイナス幅が拡大した。

業況判断DI

	業況[前年同月比]				今月の水準			
	好転%	不変%	悪化%	DI	良い%	普通%	悪い%	DI
合計	17.0 (22.0)	51.9 (48.2)	31.1 (29.8)	↘ ▲14.1 (▲7.8)	8.1 (7.8)	46.7 (46.8)	45.2 (45.4)	↗ ▲37.1 (▲37.6)
建設業	0.0 (4.5)	68.4 (72.8)	31.6 (22.7)	↘ ▲31.6 (▲18.2)	0.0 (0.0)	68.4 (77.3)	31.6 (22.7)	↘ ▲31.6 (▲22.7)
製造業	35.0 (40.0)	45.0 (35.0)	20.0 (25.0)	→ 15.0 (15.0)	20.0 (25.0)	45.0 (30.0)	35.0 (45.0)	↗ ▲15.0 (▲20.0)
卸売業	30.0 (30.8)	20.0 (46.1)	50.0 (23.1)	↘ ▲20.0 (7.7)	20.0 (23.1)	30.0 (53.8)	50.0 (23.1)	↘ ▲30.0 (0.0)
小売業	13.6 (12.5)	54.6 (37.5)	31.8 (50.0)	↗ ▲18.2 (▲37.5)	9.1 (8.3)	40.9 (29.2)	50.0 (62.5)	↗ ▲40.9 (▲54.2)
飲食業	15.0 (25.0)	35.0 (40.0)	50.0 (35.0)	↘ ▲35.0 (▲10.0)	0.0 (0.0)	30.0 (30.0)	70.0 (70.0)	→ ▲70.0 (▲70.0)
サービス業	15.9 (23.8)	61.4 (52.4)	22.7 (23.8)	↘ ▲6.8 (0.0)	6.8 (2.4)	52.3 (54.7)	40.9 (42.9)	↗ ▲34.1 (▲40.5)

( )内は前月データ

※「業況[前年同月比]」・・・前年同月の業況との比較による回答の集計  
 「今月の水準」・・・事業主の方の主観による回答の集計

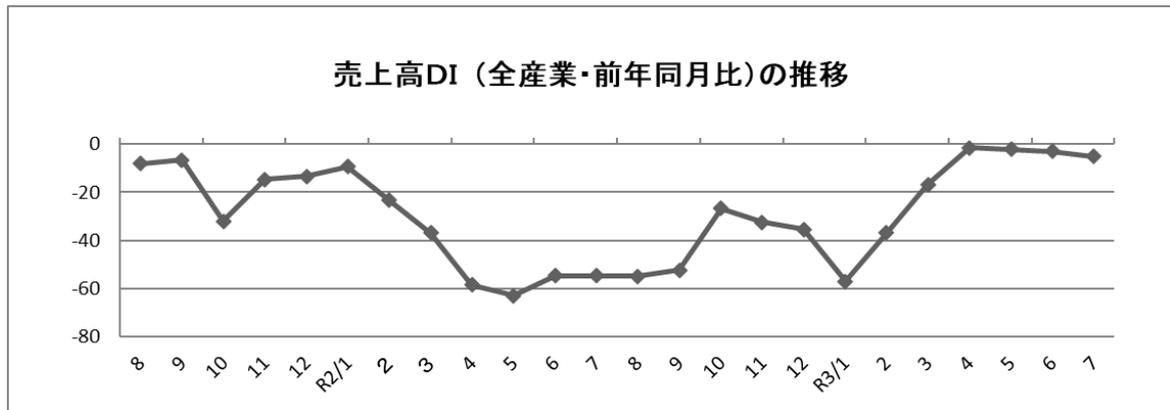


## 2. 売上高D I（前年同月比）

○全産業合計の売上高D Iは、前月（▲2.9）よりマイナス幅が2.2ポイント拡大して、▲5.1となった。業種別に見ると、製造業ではプラス幅が拡大し、サービス業では横ばいとなった。卸売業ではプラスからマイナスに転じ、小売業ではマイナス幅が縮小した。建設業、飲食業ではマイナス幅が拡大した。

【対前年同月比売上高業種別DIの推移】

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
全 体	▲ 54.8	▲ 54.9	▲ 52.4	▲ 26.8	▲ 32.4	▲ 35.4	▲ 57.0	▲ 37.0	▲ 16.8	▲ 1.4	▲ 2.2	▲ 2.9	▲ 5.1
建設業	▲ 31.8	▲ 35.0	▲ 39.1	▲ 15.8	▲ 22.8	▲ 13.6	▲ 47.4	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 30.0	▲ 33.4	▲ 18.2	▲ 26.3
製造業	▲ 76.2	▲ 68.2	▲ 64.0	▲ 47.6	▲ 38.1	▲ 43.5	▲ 68.4	▲ 36.3	▲ 27.3	▲ 8.7	16.7	25.0	35.0
卸売業	▲ 41.7	▲ 60.0	▲ 61.5	▲ 25.0	▲ 61.5	▲ 38.5	▲ 58.3	▲ 41.7	23.1	33.4	10.0	7.7	▲ 10.0
小売業	▲ 66.7	▲ 43.5	▲ 36.4	▲ 13.1	▲ 17.4	▲ 7.4	▲ 38.5	▲ 8.4	▲ 11.1	3.6	▲ 8.3	▲ 16.7	▲ 13.6
飲食業	▲ 84.6	▲ 94.1	▲ 88.2	▲ 58.8	▲ 68.7	▲ 87.5	▲ 94.4	▲ 81.2	▲ 57.9	▲ 18.7	▲ 31.3	▲ 10.0	▲ 25.0
サービス業	▲ 44.2	▲ 46.7	▲ 44.1	▲ 17.4	▲ 20.5	▲ 39.6	▲ 51.3	▲ 43.2	▲ 2.4	9.7	13.6	0.0	0.0

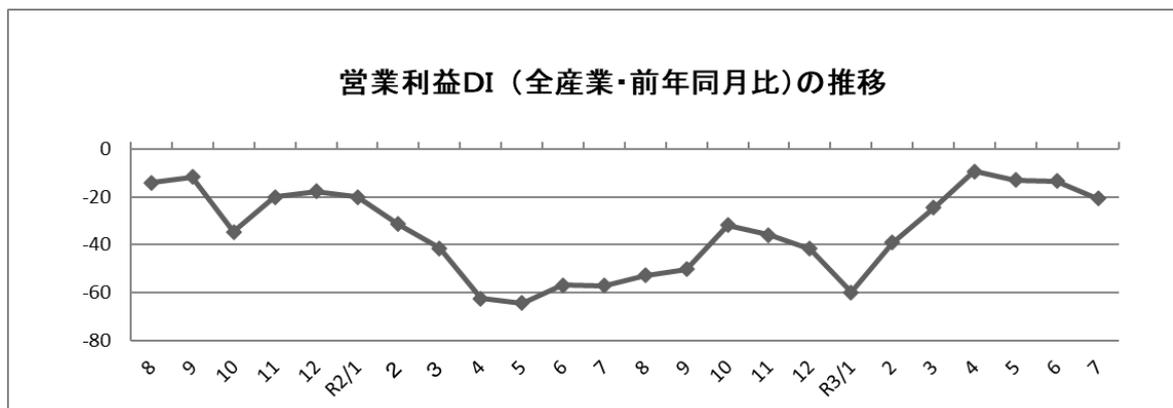


## 3. 営業利益D I（前年同月比）

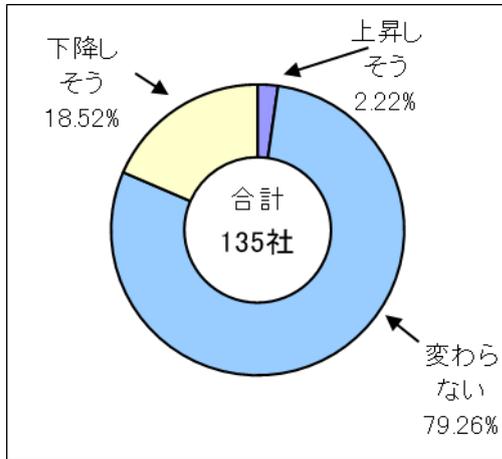
○全産業合計の営業利益D Iは、前月（▲13.5）よりマイナス幅が7.3ポイント拡大して、▲20.8となった。業種別に見ると、製造業はマイナスからプラスに転じた。小売業、サービス業、卸売業、建設業、飲食業ではマイナス幅が拡大した。

【対前年同月比営業利益業種別DIの推移】

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
全 体	▲ 57.1	▲ 52.8	▲ 50.3	▲ 31.9	▲ 36.0	▲ 41.7	▲ 60.0	▲ 39.2	▲ 24.5	▲ 9.3	▲ 13.0	▲ 13.5	▲ 20.8
建設業	▲ 36.4	▲ 40.0	▲ 30.4	▲ 31.6	▲ 36.4	▲ 31.8	▲ 47.4	▲ 30.0	▲ 35.0	▲ 40.0	▲ 33.3	▲ 18.2	▲ 36.8
製造業	▲ 90.5	▲ 59.1	▲ 60.0	▲ 52.4	▲ 57.1	▲ 56.5	▲ 73.6	▲ 31.8	▲ 31.9	▲ 17.4	4.2	▲ 5.0	5.0
卸売業	▲ 50.0	▲ 46.7	▲ 46.1	▲ 25.0	▲ 46.1	▲ 23.1	▲ 58.3	▲ 33.4	7.7	16.7	0.0	▲ 7.7	▲ 20.0
小売業	▲ 62.5	▲ 43.5	▲ 36.3	▲ 8.7	▲ 17.4	▲ 18.5	▲ 46.2	▲ 25.0	▲ 22.2	0.0	▲ 12.5	▲ 25.0	▲ 27.3
飲食業	▲ 84.6	▲ 94.1	▲ 94.1	▲ 70.6	▲ 81.3	▲ 87.5	▲ 94.4	▲ 81.2	▲ 52.6	▲ 25.0	▲ 43.7	▲ 15.0	▲ 35.0
サービス業	▲ 41.9	▲ 46.7	▲ 46.5	▲ 21.8	▲ 15.9	▲ 41.8	▲ 53.7	▲ 40.9	▲ 14.3	2.4	▲ 4.5	▲ 9.5	▲ 15.9



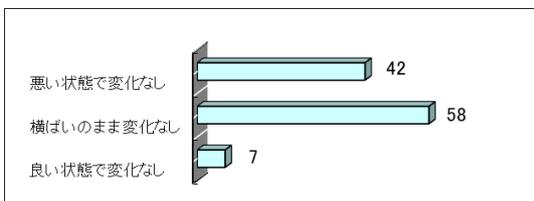
◇ 向こう3カ月の見通し ◇



○令和3年8月～令和3年10月の見通しDIは、「上昇しそう」が前月の調査に比べ9.84ポイント減少し2.22%、「下降しそう」が9.30ポイント上昇し18.52%となった。業種別の見通しDIは建設業(0.0)、製造業(▲25.0)、卸売業(▲30.0)、小売業(▲13.7)、飲食業(▲15.0)、サービス業(▲18.2)であった。

➡「上昇しそう」では「今年度の公共工事の発注があるため」(製造業)「特に8月は夏休みによる人の移動で、旅行客などの来店者増加の可能性があるため」(小売業)「少ないものの7月20日過ぎから客足に動きが出てきたため」(飲食業)といった声が寄せられた。

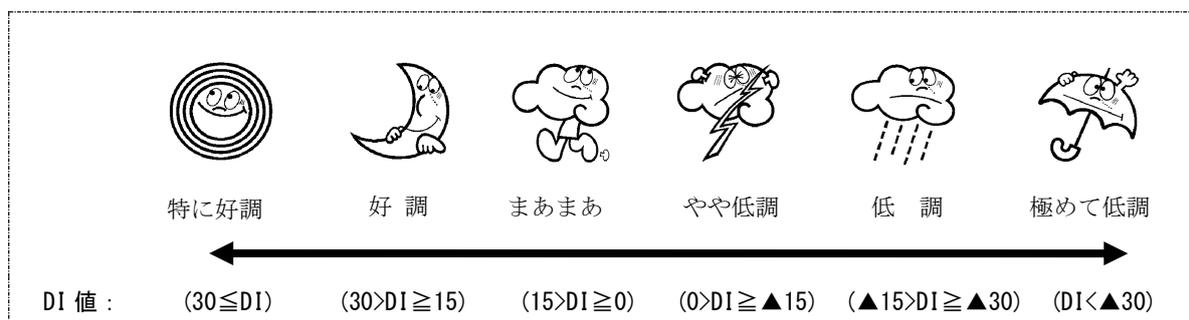
➡「変わらない」では「景気の影響を受けているとは思えないが、状況は悪くなっているように感じるため」(建設業)「デルタ株など新型コロナウイルス感染症拡大第5波の影響があるため」(製造業)「感染拡大が不安だが変化要因は少ないため」(サービス業)といった声が寄せられた。また、「コロナ禍による影響を受けているため」といった声が多数寄せられた。



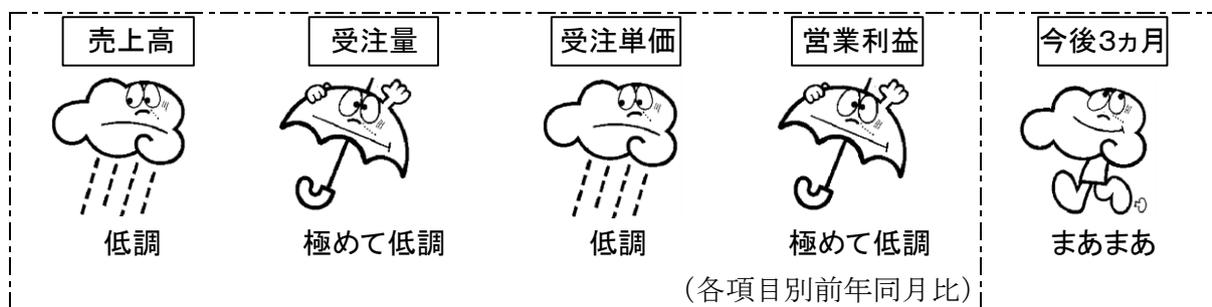
➡「下降しそう」では「航空業界が新型コロナウイルス感染症の影響を受けているため」(サービス業)「電子部品を中心に部品が不足しているため」(製造業)「9月、10月の仕掛け案件が少ないため」(製造業)「長雨、天候不良により野菜の不作のため」(卸売業)「オリンピックや夏休みで県外からの流れがあり新型コロナウイルス感染症拡大の可能性があるため」(サービス業)「新型コロナウイルス感染症と気候次第になるため」(飲食業)「7月は特別売上があったため」(サービス業)といった声が寄せられた。また、「コロナ禍による影響を受けているため」といった声が多数寄せられた。

# 業種別景況

## <DI | 君の景況判断>



## 1. 建設業



【項目別DIの推移】

	R2年7月	8月	9月	10月	11月	12月	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
売上高	▲ 31.8	▲ 35.0	▲ 39.1	▲ 15.8	▲ 22.8	▲ 13.6	▲ 47.4	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 30.0	▲ 33.4	▲ 18.2	▲ 26.3
受注量	▲ 27.3	▲ 25.0	▲ 34.8	▲ 21.0	▲ 18.2	▲ 27.3	▲ 31.5	▲ 25.0	▲ 30.0	▲ 45.0	▲ 28.5	▲ 18.2	▲ 36.8
受注単価	▲ 18.2	▲ 25.0	▲ 21.7	▲ 10.5	▲ 13.7	▲ 4.5	▲ 15.8	▲ 15.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 19.0	▲ 9.1	▲ 15.8
営業利益	▲ 36.4	▲ 40.0	▲ 30.4	▲ 31.6	▲ 36.4	▲ 31.8	▲ 47.4	▲ 30.0	▲ 35.0	▲ 40.0	▲ 33.3	▲ 18.2	▲ 36.8
見 通 し	▲ 4.6	0.0	▲ 8.7	▲ 10.6	▲ 13.7	▲ 4.6	10.5	0.0	▲ 20.0	▲ 5.0	14.2	4.5	0.0

## <経営者の目・見方・e t c >

鉄工

- ・新型コロナウイルス感染症の対応にばかり気を取られていると本来の姿を見誤ってしまう気がする。偏った報道等に惑わされることなく正確な情報を求めているきたい。
- ・先月同様に鋼材費、副資材費が高騰し品薄感も増してきた。今後の動向をより注視せざるを得ない。

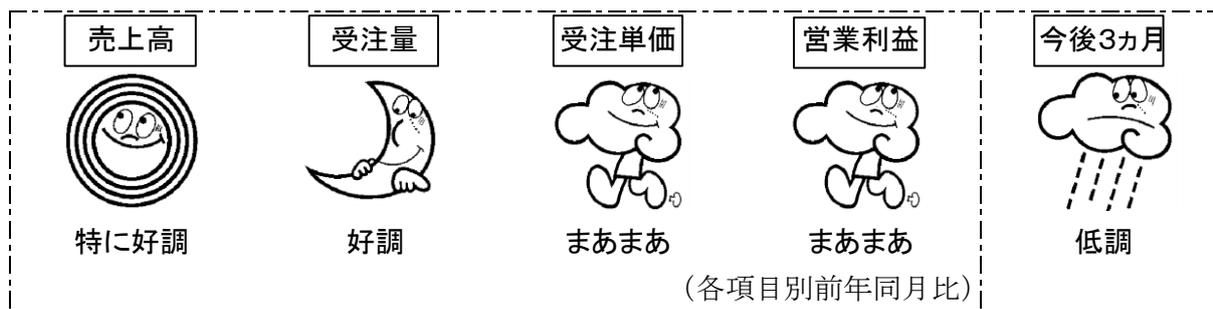
土木工事

- ・建設業及び関連産業界は低調に推移している。発注機関、自治体の早期発注を強く要望したい。

電気工事

- ・銀行法が改正になり非上場の株式会社も銀行が100%取得できるようになった。
- ・常に新型コロナウイルス感染症と向き合いながらビクビクしている。とにかく社員に陽性者が出ないことを祈るばかりである。

## 2. 製造業



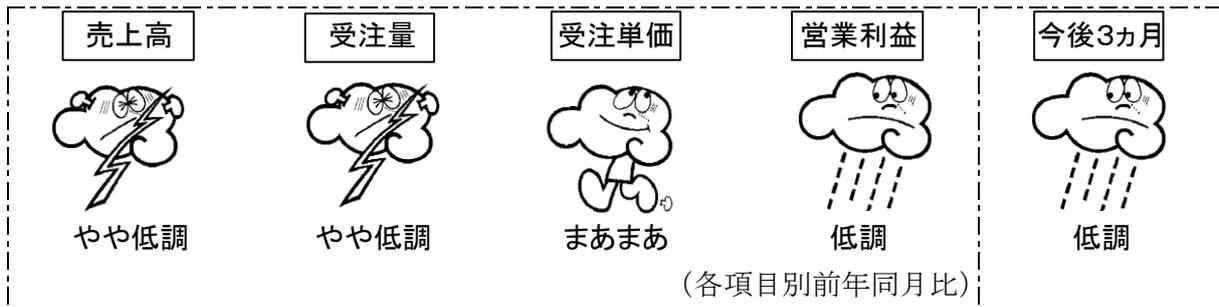
【項目別DIの推移】

	R2年7月	8月	9月	10月	11月	12月	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
売上高	▲ 76.2	▲ 68.2	▲ 64.0	▲ 47.6	▲ 38.1	▲ 43.5	▲ 68.4	▲ 36.3	▲ 27.3	▲ 8.7	16.7	25.0	35.0
受注量	▲ 81.0	▲ 59.1	▲ 52.0	▲ 42.8	▲ 33.4	▲ 56.6	▲ 57.9	▲ 31.8	▲ 13.7	▲ 8.7	8.3	25.0	25.0
受注単価	▲ 42.9	▲ 27.3	▲ 20.0	▲ 19.0	▲ 19.0	▲ 17.4	▲ 21.1	▲ 18.2	▲ 18.2	0.0	0.0	5.0	0.0
営業利益	▲ 90.5	▲ 59.1	▲ 60.0	▲ 52.4	▲ 57.1	▲ 56.5	▲ 73.6	▲ 31.8	▲ 31.9	▲ 17.4	4.2	▲ 5.0	5.0
見通し	▲ 23.8	▲ 22.7	▲ 20.0	▲ 33.3	▲ 14.2	▲ 17.4	15.8	18.2	4.5	0.0	0.0	▲ 5.0	▲ 25.0

### <経営者の目・見方・etc>

- |          |  |
|----------|--|
| 精密機械     | ・電子部品については今後更に不足するとの予測が目立つ。加えて新型コロナウイルス感染症の影響で技能実習生、特定技能の外国人スタッフが入国できず、人材の配置がうまくできない。  |
| 精密機械組立   | ・電子部品の入荷が悪く、受注量も2割減となっている。また、材料費が値上がり傾向になっている。   |
| 小型情報機器組立 | ・現在のコロナ禍では色々取りざたされているが、今を見て対応するしかないのであろうか。   |
| 金属塗装     | ・半導体の不足等で自動車産業等の工場停止等の動きが危惧される。  |
| 紙器       | ・なかなか思うように売上が伸びない。新型コロナウイルス感染症も増加してきて悩ましいところだ。   |
| 印刷       | ・行政のDXへの移行に伴う受注減の影響が一層拡大している。それに伴う予算付けや関連発注に対する代替打診や相談内容が希薄なため、受注件数も受注額も激減している印象である。コロナ禍以前からデフレ競争の印刷業界だがそのまま業界全体がDXにより一層縮小、締め付けの状況に至ってしまっている様な印象である。デルタ株による新型コロナウイルス感染症第4波から5波への影響により、イベント中止による印刷物減少が発生している。 |

### 3. 卸売業



【項目別DIの推移】

	R2年7月	8月	9月	10月	11月	12月	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
売上高	▲ 41.7	▲ 60.0	▲ 61.5	▲ 25.0	▲ 61.5	▲ 38.5	▲ 58.3	▲ 41.7	23.1	33.4	10.0	7.7	▲ 10.0
販売客数	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 30.8	▲ 16.7	▲ 30.8	▲ 30.8	▲ 33.3	▲ 33.3	7.7	0.0	0.0	▲ 15.4	▲ 10.0
販売客単価	▲ 33.4	13.3	▲ 30.8	▲ 16.7	▲ 15.4	▲ 7.7	▲ 33.3	▲ 41.7	15.4	8.4	30.0	15.4	10.0
営業利益	▲ 50.0	▲ 46.7	▲ 46.1	▲ 25.0	▲ 46.1	▲ 23.1	▲ 58.3	▲ 33.4	7.7	16.7	0.0	▲ 7.7	▲ 20.0
見通し	▲ 8.3	0.0	7.7	▲ 8.3	▲ 15.4	▲ 23.1	8.4	25.0	7.7	▲ 16.7	▲ 10.0	▲ 7.7	▲ 30.0

#### <経営者の目・見方・etc>

青果

・昨年同月単価比が野菜74%、果実96%、梅雨明けが例年に比べて早かったことから野菜の生産が順調であるが販売面としては非常に厳しい。果実は西瓜が昨年以上に売れている。

青果卸小売業

・新型コロナウイルス感染症拡大の不安により消費が低迷している。

魚介類

・新型コロナウイルス感染症の対策への見通しが甘いように感じる。海外では3回目のワクチン接種が始まる国もある。

土産品

・観光業では夏のトップシーズンに入ったが、4連休以外は昨年と変わらない状況である。

医薬品

・新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う医療崩壊が起きそうである。

鋼材

・材料の高騰に加えて品不足である。材料の手配ができなければ仕事を受ける事ができない。

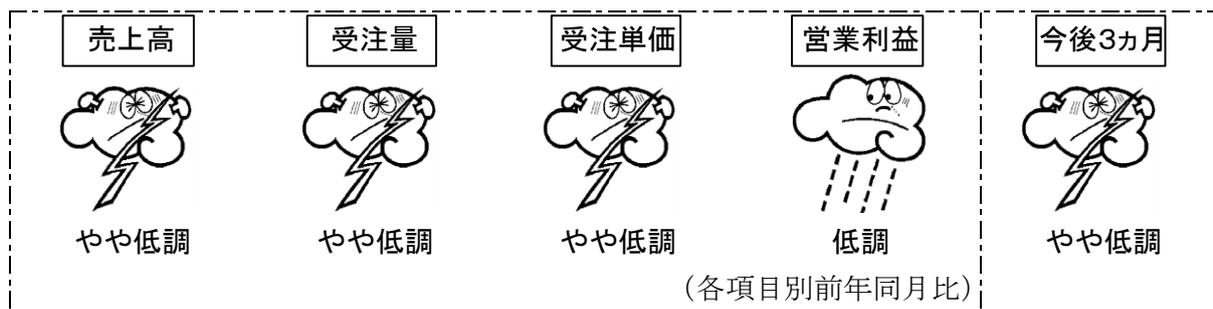
機械工具

・金属素材の高騰、品物不足があり落ち着くまで時間がかかりそうである。

金属製品

・高炉、電炉のどのメーカーも強気の姿勢は変わらない。自動車、建機、産機、造船と秋口へ向けて仕事量は旺盛であり、鉄鋼製品は一部品薄状態となっている。建築関連も秋口以降の物件が出始め、ロール対応に苦慮している状況である。

## 4. 小売業



【項目別DIの推移】

	R2年7月	8月	9月	10月	11月	12月	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
売上高	▲ 66.7	▲ 43.5	▲ 36.4	▲ 13.1	▲ 17.4	▲ 7.4	▲ 38.5	▲ 8.4	▲ 11.1	3.6	▲ 8.3	▲ 16.7	▲ 13.6
販売客数	▲ 54.1	▲ 30.4	▲ 36.4	▲ 26.1	▲ 26.1	▲ 29.7	▲ 53.9	▲ 20.8	▲ 18.5	▲ 10.8	▲ 4.1	▲ 20.8	▲ 13.7
販売客単価	▲ 37.5	▲ 21.7	▲ 31.9	▲ 4.3	▲ 21.7	▲ 3.7	▲ 7.7	▲ 8.3	▲ 14.8	▲ 10.7	▲ 8.4	▲ 29.2	▲ 13.7
営業利益	▲ 62.5	▲ 43.5	▲ 36.3	▲ 8.7	▲ 17.4	▲ 18.5	▲ 46.2	▲ 25.0	▲ 22.2	0.0	▲ 12.5	▲ 25.0	▲ 27.3
見通し	▲ 25.0	▲ 17.4	0.0	▲ 8.7	▲ 8.7	▲ 18.5	▲ 3.8	0.0	7.4	▲ 14.3	▲ 20.8	▲ 8.3	▲ 13.7

### <経営者の目・見方・etc>

陶磁器

・Go To Eatの再開やパルコde美術館がスタートし、OMFのチケットが発売されるなど消費拡大への期待が高まった。4連休以降、県外からの観光客も増加しているが、同時に県内の感染者も増加し、今年も緊張の夏が続く。

印章

・前半はPayPay、後半はクレジットカードが多く使われ、初めてキャッシュレス決済が現金売上を上回った。4連休前後より観光客が増加してきたが、一昨年までと比べると少ない。

印章・刃物研ぎ

・全ての動きが止まった様な中、オリンピックだけが楽しみであった。

住宅機器

・ウッドショックの他にメタルショックで金属製品も値が上がり出した。

洋菓子店

・夏場の洋菓子業界は比較的落ち着く傾向だが去年と変わらず良い状態が続いている。同業多店舗からも人手不足という声も聞く。製菓の専門学校も求人が多く来ていることから全体的に良いと思われるがホテル関連、結婚式場、土産物産は低調が続いている。

和菓子

・若い人の観光は元に戻っているが、上の世代の人があまり来ないので客単価が上がらない。

おやき

・宿泊業関係の売上はないに等しいが、サービスエリア、道の駅、直売所、地方発送等から一定の売上はある。政府が有効な新型コロナウイルス感染症対策を行うことに期待して頑張りたい。

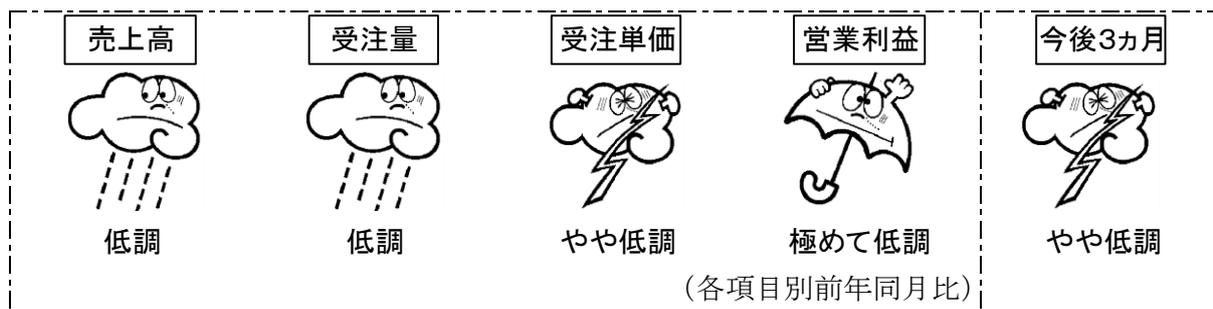
生鮮食品

・繁忙期なので毎日忙しい。Go To Eat券はお得だけで買い、どこでも使えると思っている方がいて困る事がある。観光客が大勢来店している。

手芸用品

・PayPayキャンペーンの効果がいくらかあった。

## 5. 飲食業



【項目別DIの推移】

	R2年7月	8月	9月	10月	11月	12月	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
売上高	▲ 84.6	▲ 94.1	▲ 88.2	▲ 58.8	▲ 68.7	▲ 87.5	▲ 94.4	▲ 81.2	▲ 57.9	▲ 18.7	▲ 31.3	▲ 10.0	▲ 25.0
販売客数	▲ 84.6	▲ 94.1	▲ 94.1	▲ 70.6	▲ 68.7	▲ 93.8	▲ 94.4	▲ 81.2	▲ 52.6	▲ 18.7	▲ 37.5	▲ 5.0	▲ 25.0
販売客単価	▲ 61.5	▲ 64.7	▲ 47.0	▲ 52.9	▲ 56.3	▲ 75.0	▲ 66.7	▲ 81.2	▲ 31.6	▲ 37.5	▲ 56.2	▲ 20.0	▲ 15.0
営業利益	▲ 84.6	▲ 94.1	▲ 94.1	▲ 70.6	▲ 81.3	▲ 87.5	▲ 94.4	▲ 81.2	▲ 52.6	▲ 25.0	▲ 43.7	▲ 15.0	▲ 35.0
見通し	▲ 23.1	▲ 41.2	▲ 23.5	▲ 23.5	▲ 37.5	▲ 37.5	▲ 22.2	▲ 18.8	▲ 15.8	▲ 6.3	0.0	5.0	▲ 15.0

### <経営者の目・見方・etc>

料理

・新型コロナウイルス感染症が心配なのか人が動かず、夏の風物や涼感も感じず、オリンピックの開催もあったがすっきりしない月だった。

郷土料理

・高齢層のワクチン接種が進んだためか、高齢者を連れた家族連れの来客が増えた。自粛疲れなのか土日の人出も増え、7月後半になって夏休みが始まると子供連れのグループも増えた。結果として、感染が広がって今後がわからなくなってきた。

創作料理

・予約はまだまだ少ないが、今までに比べると予約状況に動きが出てきたと感じる。ただ、東京の新型コロナウイルス感染者数の増加をみていると不安である。東京オリンピック終了後の感染者数や県内の夏休みの観光客増加による感染者数の動きがどうなるか注視していきたいが、増加に転じれば増えてきた予約もまたゼロになるのではないかと落ち着かない状況である。

中華料理

・昼夜共に来客数が増えて忙しくなってきた。今の就業人数だと足りなくなってきたが、依然宴会がないため目標売上には達していない。売上が足りていないので人員を増やすか悩んでいる。仕事量が増え、忙しいのは嬉しいが、売上は増えず体が疲れる。

・松商学園高等学校野球部の優勝で街に明るい話題が増えて嬉しい。

・高齢者のワクチン接種が進んできたのか徐々にお客様の戻り感があるが、都会の感染者数が増加しているのでまだまだ安心できない。

ラーメン

・コロナ禍での営業につき、厳しい状態であるので、支援の方法を考えてほしい。

そば

・徐々に高齢者や家族連れが増えつつあるように感じる。去年を思えばありがたくこの先も営業努力をし、地道に頑張っていくしかない。

寿司

・新型コロナウイルス感染症により依然として先の見通しがつかず、来客数が減少したままで大変厳しい状況である。

食堂

・夏休みに入り人流が目立ってきた。県外ナンバーの車も多く入り込んでいる。この調子だとこの先、新型コロナウイルス感染者が急激に増えそうで非常に不安である。ワクチン接種が進んでいるとは言え油断はできない。

居酒屋

・新型コロナウイルス感染者が急激に増加して、客足は遠のくばかりである。松本カーラーのお客さんがぼつぼつ来てくれてありがたい。  
・働き盛りの人のワクチン接種がもう少し早まれば良いと思う。人出は少ない。  
・4連休で首都圏からの人出が多く、2週間後の新型コロナウイルス感染拡大が危惧される。松本ぼんぼんや夏祭りの中止で更なる景気の落ち込みが危惧される。

## 6. サービス業



【項目別DIの推移】

	R2年7月	8月	9月	10月	11月	12月	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
売上高	▲ 44.2	▲ 46.7	▲ 44.1	▲ 17.4	▲ 20.5	▲ 39.6	▲ 51.3	▲ 43.2	▲ 2.4	9.7	13.6	0.0	0.0
販売客数	▲ 46.5	▲ 44.5	▲ 41.9	▲ 19.6	▲ 18.1	▲ 34.9	▲ 56.1	▲ 43.2	▲ 11.9	9.8	2.3	0.0	▲ 6.8
販売客単価	▲ 25.6	▲ 20.0	▲ 20.9	▲ 8.7	▲ 6.8	▲ 14.0	▲ 24.4	▲ 27.2	▲ 2.4	7.3	▲ 9.1	▲ 4.8	▲ 9.1
営業利益	▲ 41.9	▲ 46.7	▲ 46.5	▲ 21.8	▲ 15.9	▲ 41.8	▲ 53.7	▲ 40.9	▲ 14.3	2.4	▲ 4.5	▲ 9.5	▲ 15.9
見通し	▲ 11.6	▲ 13.4	▲ 4.6	▲ 6.5	▲ 16.0	▲ 23.3	▲ 12.2	4.5	▲ 2.3	▲ 17.1	▲ 2.3	14.2	▲ 18.2

### <経営者の目・見方・etc>

旅館

・昨年よりは上振れしたが、一昨年と比べるとまだまだ回復していない。新型コロナウイルス感染症の第5波により先行きが不透明となってきた。

温泉旅館

・東京をはじめとして全国的に広がりを見せている新型コロナウイルス感染症が今までにない最大の感染者数で非常に危惧している。これからの夏休みシーズンの繁忙期に大きく水を差すと思われるのが不安でたまらない。  
・スポーツシーズンで予約も最多であったが、新型コロナウイルス感染拡大により県外への往来が自粛となったためキャンセルが続出となった。

観光旅館

・昨年は新型コロナウイルス感染症に加えて、自然災害等により中旬からの営業となったが、今年も11日までは休業した。梅雨明けが早く、天候に恵まれなかった中旬は入込が増えてはきたが、後半の天候不順と感染拡大により伸びなかった。それどころか、首都圏を主とした緊急事態宣言の延長や爆発的な感染の拡大により8月からの営業が不安である。

ホテル

・宿泊は低迷しており、宴会はほとんどない。小さな会議利用があるのみでやりようがないのが現状である。

宿泊	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単純に新型コロナウイルス感染症の影響を受けた低迷ではないと思う。お客様のニーズや動きが変化し、対応しきれないと取り残されてしまう。</li> </ul>
ホームクリーニング・リネンサプライ業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年同月に比べると売上は120%前後上昇しているが、一昨年同月では未だ70%くらいである。ワクチン接種の普及により今年の年末、年始くらいから新型コロナウイルス感染症の影響も薄れるのではないかと想定していたが、現状を考えるとまだまだ先に延びそうである。</li> </ul>
リラクゼーション ペットサービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人の動きが鈍く感じた。</li> <li>・7月は来客数、売上共に前年を上回った。一方ホテルの利用は新型コロナウイルス感染症の影響で前年を下回った。8月は繁忙期だが、新型コロナウイルス感染症による旅行の減少により、ホテルの利用はあまり見込めない予測だ。新型コロナウイルス感染症の更なる増加により、より一層の感染対策をしっかりしていきたい。</li> </ul>
獣医	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症のワクチン接種を推進してほしい。獣医療業界もコンパニオンアニマルとしての混合ワクチンの接種普及を啓蒙している。</li> </ul>
写真	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大は痛い。感染者の人数も日々増え続けている。少しずつ増えてきた人の動きも減ってきている。行事、イベントが延期、中止になってきている。</li> </ul>
測量・建設コンサルタント業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3次元モデルによる測量設計を必須とする業務を受注した。今後はUAVによるレーザー測量が主流になると言われているが、高額な機器やソフトへの投資、資格を有する技術者育成など、課題も多い。</li> </ul>
機械設計 システムサポート ソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受注量は思った以上に多い。購入部品の一部が間に合わない。</li> <li>・8月に入り新型コロナウイルス感染症拡大による景気の悪化、影響の不安ある。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響でリモート作業、クラウドの活用がIT企画、投資のメインになり、受注案件も既存システムの置き換えが多い。昔ながらのスタイルで、一括投資型のものが多いが費用が増大。特性を生かして少しずつステップアップする方法がおすすめである。</li> </ul>
タクシー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上高地方面で、県民応援観光クーポン券を利用してお客様が少し増えてきた。</li> </ul>
教育業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月は東京オリンピックも始まったが、依然新型コロナウイルス感染者数も上昇傾向にあり、自粛が続いているため動向はあまりないと思う。</li> </ul>